

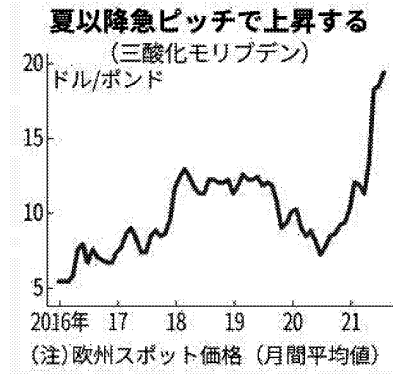
モリブデン 国際価格2倍

年初比 銅の副産物、増産進まず

ステンレス鋼の強度などを高めるレアメタル（希少金属）、モリブデンの国際価格が急伸し年初の約2倍となった。ステンレス向けの需要が伸びる一方、モリブデンは銅の副産物であることが多く、機動的な増産が難しい。ステンレス鋼のコスト押し上げ要因になる。

ステンレス向け需要増

国際指標となる欧州市場は6月以降、上昇が急場の三酸化モリブデンのピッチだ。8月末には1 Sの推計によると、モリブデンの20年の生産量



08年10月以来の高値をつけた。現在も20・5ドル前後で推移する。

米地質調査所(USGS)の推計によると、モリブデンの20年の生産量

(鉱石ベース)は30万ト。そのうち4割を中国、2割をチリ、約16%を米国が占める。モリブデンは供給量の約7割が銅鉱石から作られる。

主産品の銅の高値がモリブデンの増産を阻む。世界的な脱炭素の流れで、銅はより電線を多く使う電気自動車(EV)向けのほか、再生エネルギー発電設備向けに需要が旺盛だ。

5月に指標となるロンドン金属取引所(LME)3カ月先物が一時1ト1万7000ドル台まで上昇し過去最高値を更新した。現在は9300ドル前後で推移するが、前年同期比で4割高い。

資源会社は銅の生産を増やしている。世界有数の産銅会社、チリ公社コデルコの1〜6月の銅生産量は85万トと前年同期に比べて約7%増えた。一方、モリブデンの生産量は約1万1000トと同2割ほど減った。

米国の5月の生産量は前年同月比22%減った。製錬したモリブデンを運ぶコンテナの運賃も上昇している。モリブデンの9月の月間平均価格は(前年同月比2.4倍の)20ドルを超えてもおおしくない(アドバンストマテリアルジャパン東京・千代田の松村洋合金鉄部長)との声もある。

一方、主な用途のステンレスの需要は底堅い。中国などの経済活動の正常化などで、家電や産業機器向けが増えている。

ステンレス鋼の生産者などで構成する国際ステンレススチールフォーラム(ISSF)によると、1〜3月のステンレス粗鋼の生産量は世界全体で1451万2千ト。前年同期比287万6千ト(25%)多い。

モリブデンの消費も、ステンレスの需要増に伴い拡大している。ステンレス鋼の原料では、ニッケルも値上がりが目立つ。高値が続けば、ステンレス価格の一段の上昇につながるだろう。